

クローバーバス・プロジェクトが動き出しました。

平成 19 年 12 月 15 日で、バス事業者による路線バスが廃止されました。

山古志・太田地区では、中越地震により大幅減便した路線バスを補うように、中越大震災復興基金を活用したコミュニティバスが代行し、今も運行が続けられています。しかし、復興基金に頼るこの方式には限界があります。

そこで長岡市と関係地域の住民代表を中心に構成された「山古志・太田地区生活交通協議会」を設置し、今後のバス事業について協議してきました。

そして、7 月からは「NPO 法人中越防災フロンティア」が地域の皆さんの協力を得ながらクローバーバスを走らせることになりました。

■「山古志・太田地区生活交通協議会」とは

地域の区長さんが委員として参加している委員会です。長岡市（行政）は、山古志支所長が委員として参加しています。市の交通政策課は事務局で参加しています。

市営バスにすることはできませんが、地域の皆さんが「バスが必要」との意志を明確にされたことを受け、行政も具体的な支援に入ります。

○メンバー

長岡技術科学大学 准教授（委員長）	佐野 可寸志
新潟大学 准教授	福留 邦洋
長岡市 山古志支所長	青木 勝
山古志種苧原地区区長	坂牧 正憲
山古志虫亀地区区長	若槻 敬
山古志三ヶ・東竹沢地区区長	青木 幸七
山古志竹沢地区代表	高野 定雄
太田地区連合町内会長	森山 重信
長岡市ハイヤー協会 副会長	小川 浩司
NPO 法人中越防災フロンティア 監事	山口 壽道
○事務局 長岡市交通政策課・（社）北陸建設弘済会	

■どんなバスになるのか

協議会では、この地域が住民の「足」であるバスを将来も継続して確保するための「しくみ」を検討してきました。そのためには、今は自家用車を運転している人も含め、地域の皆さんの全員参加を基本とすることをスタートラインにしたいと協議を続けています。

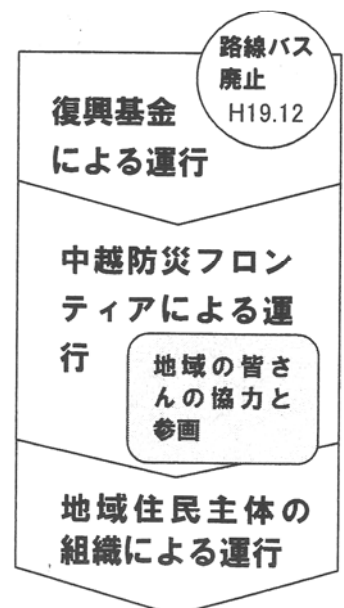
■地域の皆さんの手でバスは走り続けるー今後の予定

現在は、復興基金をつかってコミュニティバスが運行していますが、7 月からは「NPO 法人中越防災フロンティア」が運行します。まずは皆さん NPO 会員になってもらいます。NPO が運行するバスは、地域の全世帯の参加のもとで会員向けに無料でバス運行を開始します。道路運送法によらないこのクローバーバスは、多様に多彩に活用することができまから、皆さんのアイディアによっては地域活性化の起爆剤にもなります。

住民が主役のクローバーバスが動き始めます。

H20 年
7 月

H25 年頃



クローバーバス運行計画（案）

(1)クローバーバス運行計画概要

- 長岡・宮内方面は、「村松」にて路線バスと接続させることを基本にダイヤを設定する。同様に小千谷方面では「岩間木」にて接続。
- 昼間の便を中心に、利用が少なく不定期である便については、デマンド運行（電話予約）とする。時刻とルートを設定するが、電話予約がなければ運休とする。
- 路線バス接続を基本にダイヤを組むことで、現行のコミュニティバスのダイヤをほぼ踏襲する形となる。現在のコミュニティバスが隔日運行している便についてもデマンド式に統一する。
- 日曜・祝日は運休とする。土曜日においては利用状況に合わせた運行としていく（土曜の早朝便（主に学生利用）は運休等）。
- 現在コミュニティバスが運行している日曜・祝日の村松-蓬平については、太田地区で運転協力者の候補があれば検討していく（現在のところ運休で計画）。
- NPO入会時に詳細なバス利用実態調査を実施。それを基にダイヤの調整をおこなう他、曜日・時間を限定した病院バス等も考慮していく。

(2)利用方法 ～会員システム～

- ・クローバーバスは「NPO法人中越防災フロンティア」の会員（5,000円）となることで利用可能となる（毎年更新）。乗車時の利用料は「無料」とする。
- ・会員登録は世帯ごとに行うものとして、会員には会員証（＝バス利用パス）を1枚発行する。利用者は乗車時に会員証を提示する。
※家族で同一便を利用する場合は、1枚の会員証で乗車可能
- ・定期的に別便を使う場合は、複数枚の会員証が必要。
※会員証1枚：正会員（5,000円）（地域内全世帯対象）
- ・バス事業会員は、入会時にバス利用の実態・要望に関するアンケート調査を実施する。
- ・緊急の利用、会員証不携帯等については、別途運用マニュアルで柔軟に対応する。

(3)利用方法 ～予約（デマンド）システム～

- ・時刻表の 部については、事前の電話予約（デマンド）式とする。電話予約は、午前中の便は前日17:00まで、午後の便については当日10:00までに行うものとする。電話予約がない場合は運行しない。
- ・運行ルートの破線部については、デマンド対象の便で電話予約があれば経由する。降車の場合は車内で伝えても可。

利用が固定化した便については、順次定期運行のバスに変更していく。

(4)利用方法 ～企画バスの運行～

- ・通常のバス運行の他、企画バスを検討する。闘牛等観光イベントとの連携のほか、曜日と時間を確定し多くの利用者が見込めるならば病院直通バスの運行等も考えていく。

